

# 赤十字NEWS

August 2012 Vol.867  
http://www.jrc.or.jp



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



## でかい自然と友情で みんなの元気をフルチャージ サマーキャンプ2012 in クロスヴィレッジ

「初めて馬に乗れた!」「いっぱい魚が釣れたよ!」。大自然の中でのレクリエーションを通じて、被災地の子どもたちの元気と笑顔を育む「サマーキャンプ2012 in クロスヴィレッジ」(7月21日~8月23日、計11回)。会場の北海道留寿都村(ルスツリゾート)は連日、にぎやかな歓声に包まれています。東日本大震災で大きなストレスを受けた子どもたち。広い大地でこころもからだも解放して、のびのびと成長してほしいと願っています。

### CONTENTS

#### TOPICS 2

Def Tech  
ドネーションキャンペーン  
東日本大震災復興支援  
宮城県石巻市で  
赤十字ボランティアが炊き出し

#### TOPICS 3

AKB全国ツアー  
若者が日赤PR  
作品募集中  
いのちと献血俳句コンテスト  
大分・熊本・福岡県大雨災害への  
義援金募集  
常任理事会開催報告

#### SPECIAL 4 | 5

日赤キッズクロスプロジェクト  
子どもたちの元気を応援します!

#### AREA NEWS 6 | 7

静岡・大阪・新潟・神奈川  
岐阜・香川・愛知・石川  
スポーツとコラボ  
赤十字看護大学・  
短期大学入学案内  
書籍紹介  
寄付に感謝!  
プレゼント

#### WORLD 8

大規模自然災害  
世界防災閣僚会議 in 東北  
アフリカ・サヘル地域  
深刻な食糧危機  
シリア  
赤新月スタッフが犠牲に

### クローズアップ



東京海洋大学 客員准教授  
さかなクン

#### 豊かな海が戻ると強く信じています

7月3日の「すまいるぱーく in FUKUSHIMA」(福島県福島市)では、楽しい魚クイズで子どもたちに笑顔を届けたさかなクン。東日本大震災発生直後から、漁業関係者とともに街頭で募金活動を行ったり、被災地の水族館の復旧に尽力するなど、精力的に復興支援活動に取り組んでいます。

「小さい頃、家族といわき市の小名浜に遊びに来たんですが、その時と比べると、震災後のいわきの海は静かでした。豊かな漁場があるのに操業できない漁師さんた

ちを見て、私たちも応援するから、以前のように活気ある海を取り戻してほしいと思いました」

さかなクンによれば、日本の海の魅力は四季があること。「初夏には初ガツオが福島にやってきて、その後北上し、秋になると戻りガツオになって帰ってくる。海にも四季があることを、魚がいろんな表現で教えてくれます。まだ被災地の海は、がれきなどがたくさん沈んでいますが、自浄能力によって、豊かな海に戻ると強く信じています」と言うさかなクンの目は真っすぐでした。

#### PROFILE

約5000種類の魚の名前が言えるほどの豊富な知識と明るいキャラクターで大人気のさかなクン。テレビや新聞でも活躍し、子どもたちを中心に魚や海、自然への興味を引き出し、環境保全への理解を深める講演活動を全国で開催。「お魚大使」として、漁業関連を中心に復興支援活動を展開しています。千葉県在住。



# Def Tech × 日本赤十字社 ドネーションキャンペーン、スタート! 「Bolero」を聴いて、活動資金にご協力を!



Def Techの2人、Microさん(左)とShenさん。2人からのメッセージは、Def Techの公式WEBサイトのキャンペーン特設ページ <http://deftech-redcross.jp/> でオンエア中

人気ボーカルユニットDef Techが歌う日本赤十字社のテレビCM曲「Bolero (ボレロ)」を購入すると、その収益金が日赤に活動資金として寄付されるドネーション\*キャンペーンが7月15日からスタート。\*寄付のこと

「アクション起こしたい」

このドネーションキャンペーンは、楽曲を提供したDef TechのShenさんとMicroさんの2人が、日赤の活動や理念に強く共感したのがはじまり。具体的なアクションを起こしたいという2人の要望に、所属レコード会社や事務所も全面協力し、実現しました。

ダウンロードでの寄付を呼びかけ

救護班の活動を、医療セッ トが入ったシラールミネケースの目線で描いた日赤のCM。Microさんは「CM映像を見て率直に胸を打たれました。CMにも登場した日赤職員の頼もしい姿やその苦労に光が当たるようにとの思いで、今回の音楽を制作しました」と曲に込めた思いを語ります。

ライブで曲を披露 観客を魅了



協力と呼びかけています。小さな子ども連れのファンもたくさん。幅広い世代に人気の2人

5月のテレビCM放映開始時から話題となっていた「Bolero」の全曲が初披露されたのは、フジテレビが主催するイベント「お台場合衆国2012」の中で行われた7月15日の「めざましライブ」の公演。会場を埋め尽くした1000人以上のファンにとっては待望の新曲で、Microさんが「阪神・中越ハイチ、そしてこの前の東日本と、世界中の災害現場を見てきた救急箱(医療セット)が主役の、日赤のCMに提供した曲です」と紹介しました。荘厳なドラムロールの前奏が流れると、会場の雰囲気はそれまでと一変。真摯で力強い2人の歌声に、ファンは動きを止めじつと聴き入っていました。

## 「Bolero」の購入方法



「Bolero」はiTunes Storeでのオンライン限定配信です。iTunes Storeで曲を購入するには、パソコンなどの端末をインターネットに接続する必要があります。

- 1 アップル社ホームページ (<http://www.apple.com/jp>) から、パソコンに音楽再生・管理ソフトiTunesをダウンロード(無料)します。
- 2 iTunes内iTunes Storeのメニューから「新規アカウントを作成」を選択。指示に従いアカウントを作成します。
- 3 アカウント作成が完了すると、曲の購入が可能になります。
- 4 iTunesで、「Bolero」または「Def Tech」で検索し、「Bolero」の楽曲を表示させます。
- 5 購入ボタンを押して、パソコンなどにダウンロードします。

\* アップル社のiPhoneやiPadにはiTunesがプレインストールされています。

## 東日本大震災復興支援

# 宮城県石巻市で徳島・山形の赤十字ボランティアが炊き出し 阿波おどりと花笠踊りで笑顔の輪



阿波おどりの浴衣・編み笠姿で料理を配る支援隊。入居者の皆さんから笑顔がこぼれます



自治会副会長の勝又末太郎さん

東日本大震災の被災地を支援しようと、日本赤十字社徳島支部と山形県支部の奉仕団員(ボランティア)と職員ら約30人による合同炊き出し支援隊が6月30日から2日間、宮城県石巻市内の仮設住宅を訪問。徳島・山形両県の食材を使った炊き出しや、阿波おどりと花笠踊りで笑顔を届けました。心のコもった支援に入居者の皆さんは「入居以来、こんな催しは初めて。とても感動しました」と喜んでいました。

## 仮設住宅に笑顔と歓声

両県支部奉仕団員による合同炊き出しは、昨年5月の気仙沼市、同9月の女川町訪問に続いて3回目。仮設住宅で暮らす被災者の皆さんに食べ物を通じて安らぎを届けるとともに、全国的に知られる阿波おどりと花笠踊りを一緒に踊ることで、健康増進や入居者同士の交流、コミュニケーションづくりなどを支援することが目的です。

初日に訪れたのは、54世帯156人が入居する蟹田地区・内田地区の仮設住宅。阿波半を使った牛丼やそば米汁など徳島県の郷土料理250食と、山形県産のサクランボ

をデザートとして振る舞いませした。食事の後は支援隊のメンバーが阿波おどりと花笠踊りを披露。浴衣と編み笠姿の華やかな踊りの輪に入居者の皆さんも次々に加わり、一足早い盆踊りのような雰囲気になった会場は、笑顔と大きな歓声に包まれました。

## 「被災者の私たちが手伝いたいんです」

震災で家を流された木村良さんは「久しぶりにおいしい料理を頂きました。この地区では今年初めての炊き出しではないですか」。

2日目は石巻バイパス用地に建てられた仮設住宅を訪問しました。石巻市と女川町を結ぶ国道234号線沿いの長さ約1キロに及ぶ敷地に、230世帯550人が生活し

ています。この日の目玉料理は山形名物の芋煮600食。サトイモやシメジ、牛肉をたっぷり使った隣県の郷土料理に、鍋持参で並ぶ人も。女川町の離島、出島から避難してきた東海良子さんは山形県酒田市出身です。「今までごちそうしていただいた炊き出しの中で、「一番」と太鼓判を押しました。

同仮設住宅自治会副会長の勝又末太郎さんは「今回、準備や後片付けを入居者も手伝いました。ボランティアの方々がやってくださるいろいろな支援を私たちも手伝いたいんです。結構体力は要りますが、体を動かす機会があることは良いことだと思います」と語りました。

本支援事業の詳細は、日赤公式ホームページ、YouTube公式チャンネルで紹介しています。



# AKB48全国ツアー いい汗キラリ 若者が日赤PR



ツアー初となる屋外ライブは、夕日で輝く沖縄の海を前に1万人の観客を魅了

「私たちAKB48ファンの若い力で赤十字も応援しよう!」——AKB48の全国ツアー2012の会場に今年も赤十字のPRブースが展開中。日本赤十字社のメルマガ会員限定で募集したボランティアのメンバーたちが元気に赤十字をPRしています。

会場でのPR活動は、AKB48をオフィシャルメッセンジャーとして展開中のキャンペーン「赤十字を知ってほしい。もっと。」の一環です。公演会場ごとに選ばれた10、20代を中心としたボランティアが、同世代のファンにPR

グッズを配付。日赤メルマガの登録や赤十字の活動資金への協力を呼びかけます。

## 日赤に若い力を！ 沖縄で呼びかけ

今年の日赤ブース初出展となった7月22日の沖縄公演(豊崎美らsunビーチ特設ステージ)には6人のボランティアが参加しました。



3000人を超えるファンが来場した日赤ブース

「赤十字は医療や献血だけじゃないの?」と思っていた比嘉康敬さんは日赤の幅広い活動内容を知り、「赤十字の活動が寄付に支えられていることに驚いた。自分も支援を続けたい」と赤十字ファンの継続を約束してくれました。

今後の予定は、随時特設ホームページでご案内します。3000人を超えるファンが来場した日赤ブース

## 日本赤十字社の「いま」が分かる——メルマガ会員にご登録を!



メルマガでは、日赤の国内外でのさまざまな活動をはじめ、都道府県支部ごとのイベントのご案内や知って役立つ情報などをお届けします。

詳しくはWEBで [www.jrc-akb48.jp](http://www.jrc-akb48.jp)  
●スペシャルコンテンツも随時更新!  
●最新情報はメルマガでGET!

## 義援金受付中 九州北部豪雨災害救護・救援活動に全力

7月初旬と中旬に九州北部を相次いで襲った記録的な豪雨。河川の氾濫や土砂崩れにより、住宅の損壊・浸水など甚大な被害が発生しました。日本赤十字社は、職員ボランティアが一体となった救護・救援活動を行うとともに、被災された方々を支援するための義援金を受け付けています。



阿蘇市地域赤十字奉仕団は、4日間で延べ850食分の炊き出しをつくりました

被害が大きかった大分、熊本、福岡の日赤各県支部は避難している住民の方々に毛布、緊急セットなどの救援物資を配付。防災ボランティアや赤十字奉仕団員の協力を得て、救援物資の積み下ろし作業や炊き出し、無線による情報収集などを行いました。

### 大分・熊本・福岡県大雨災害への義援金募集

**平成24年7月大分県大雨災害義援金**  
受付期間 平成24年8月31日(金)まで  
郵便振替 ゆうちょ銀行・郵便局  
口座記号番号 01750-5-80  
口座加入者名 日赤大分県支部  
大分県大雨災害義援金  
※通信欄に「大分県大雨」と明記してください  
お問い合わせ先 日本赤十字社大分県支部  
TEL 097-534-2236

**H24.7.12熊本広域大水害義援金**  
受付期間 平成24年8月31日(金)まで  
郵便振替 ゆうちょ銀行・郵便局  
口座記号番号 01750-4-112  
口座加入者名 日赤熊本県支部  
熊本広域大水害義援金  
お問い合わせ先 日本赤十字社熊本県支部  
TEL 096-384-2120

**平成24年7月福岡県豪雨災害義援金**  
受付期間 平成24年8月31日(金)まで  
郵便振替 ゆうちょ銀行・郵便局  
口座記号番号 01760-2-154  
口座加入者名 日赤福岡県支部  
福岡県豪雨災害義援金  
お問い合わせ先 日本赤十字社福岡県支部  
TEL 092-523-1171

※ゆうちょ銀行・郵便局窓口での取り扱いの場合、振替手数料は免除されます。  
※受領証を希望される方は、通信欄に「受領証希望」と記載してください(所得税などの税額控除を受ける際には、受領証が必要です)。  
※銀行口座でも義援金を受け付けております。詳しくは各県支部までお問い合わせください。

## 第7回「いのちと献血俳句コンテスト」作品募集中

献血の将来を担う子どもたちを中心とした幅広い世代を対象に、俳句創作を通じて献血への意識を高めてもらうこと、日本赤十字社は第7回「いのちと献血俳句コンテスト」を開催しています。個人・団体部門があり、10月15日まで作品募集中です。



募集するのは、いのちの尊さや愛、友情、助け合い、感動の体験などをテーマにした作品。俳句で表現していくことで「いのち」に意識を向け、それを支える「献血」への理解につなげていくのが狙いです。

昨年の応募総数は約36万句。審査員長である俳人の黛まささんは講評で「俳句は自然と人のつながりを詠み、いのちをたたえる、いのちの文学。俳句を通じて皆さんの

### 応募要項

- 作品についての注意事項  
作品は、いのちの尊さや愛、友情、助け合い、感動の体験などをテーマにした有季定型の俳句。季節(春・夏・秋・冬・新年)を明記してください。応募作品は未発表のものに限ります。
- 応募部門と各賞  
(個人部門) 小学校低学年、小学校高学年、中学生、高校生、一般の5部門  
・厚生労働大臣賞/文部科学大臣賞/審査員特別賞/日本赤十字社長賞/ゲスト審査員賞/ピカチュウ賞/入選(各部門47作品、計235作品)ほか  
(団体部門) 小学校、中学校、高等学校、一般の4部門  
・団体賞(4部門各47団体、計188団体)
- 応募資格  
年齢、性別、国籍を問いません。ただし日本語での応募に限ります。
- 応募期間  
平成24年10月15日(月)まで(郵便での応募は当日消印有効。FAX・メール(パソコン・携帯電話)での応募は当日24時まで有効)
- 応募方法  
個人/応募専用はがき、官製はがき、FAX(A4判)、メール(パソコン・携帯電話)  
団体(学校)/団体、学校専用応募用紙  
記載事項/作品、郵便番号、住所(都道府県から)、氏名、学年・学校名(学生の場合)、電話番号(作品と氏名には「ふりがな」をつけてください)
- 応募先  
はがき/〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡3-5-11  
日本赤十字社 第7回「いのちと献血俳句コンテスト」事務局  
FAX/03-4477-8643 メール(パソコン・携帯)/公式サイトからアクセス
- お問い合わせ先  
048-485-2395(受付時間は10~17時 土日祝日を除く)

詳しくは公式サイト <http://www.ken-haiku2012.jp/> をご覧ください。



公式サイトにアクセスできます

### 常任理事会 開催報告

平成24年7月20日、本社において平成24年度第4回の常任理事会が開催されました。

#### 付議事項

1 予算の補正について

(東京都支部、長野県支部及び愛知県支部の東日本大震災の災害等補償収入による施設への繰り出しにかかる一般会計歳入歳出予算の補正) 2 不動産の処分について (福井赤十字病院の駐車場拡張に伴う研修棟等の解体、盛岡赤十字病院の敷地内盛岡赤十字看護専門学校)の閉校に伴う解体

にかかると、長野県支部の補正結果、予算の補正及び不動産の処分については原案のとおり議決されました。また、松山赤十字病院の施設整備計画、青少年赤十字の活動と課題及び予算の補正にかかる6月の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。





# 笑って、はじめて、汗かいて… 子どもたちの元気を応援します!

「子どもたちに笑顔を」を合言葉に、東日本大震災の被災地の子どもたちに寄り添い、健康と安全をサポートしていく「日赤キッズクロスプロジェクト」。  
つらく悲しい体験をした子どもたちの「こころの復興」を願い、日本赤十字社は自然の中での感動体験や友達づくりを応援する夏のイベントを開催中です。

初めての乗馬体験。最初はこわこわだった子どもたちも、すぐに慣れて二コニコ。「馬の目って、かわいいな」



スマイルパーク  
in FUKUSHIMA

公園に行ってもほとんど人がいない状態で、同じ年代の子どもと遊ぶ機会がなくなっています。スマイルパークのような遊び場があるとストレス解消になります。

佐藤希さん、珠希ちゃん親子

思いっきり遊んで  
笑顔いっぱい!

巨大なエア遊具やボールプールなどが並べられた会場に、子どもたちのにぎやかな歓声が響きわたる「スマイルパーク in FUKUSHIMA」。放射線への心配から外遊びが制限されている福島県内の子どもたちに、思いきり体を動かして遊べる機会を提供しようとして、日赤が企画して開催。これから12月まで、福島県内4都市6カ所を巡回予定です。

これからも福島で子育てをしていきたいです。きちんと対策を講じれば家族で克服できると信じています。スマイルパークが常設されると嬉しいです。

佐藤真由美さんと3人のお子さん



- ① オープニング会場の福島市南体育館にて。初日の7月3日だけで560人の親子が来場。みんな汗びっしょりになって遊びました
- ② 大きなタイヤの中に入ってゴロゴロ。目が回らないように気を付けて!
- ③ 折り紙でつくる「ふるさとアート」のコーナーには、子どもたちの願いが書かれた短冊も
- ④ さかなクンは魚クイズで、子どもたちに魚の生態を楽しく教えてくれました
- ⑤ 飛び跳ねたり、泳いだり、投げっこしたり。大人気のボールプールです

開催概要  
● 相馬市：開催中～8月3日(金) / 相馬市総合福祉センターはまなす館(相馬市小泉字高池357)  
● いわき市：9月下旬～10月上旬 / 会場調整中  
● 白河市：10月16日(火)～25日(木) / 国体記念体育館(白河市北中川原30)  
● 相馬市：11月14日(水)～26日(月) / スポーツアリーナそうま(相馬市中村字北町55-1)  
● 福島市：12月18日(火)～27日(木) / パルセイざが(福島市飯坂町字駅前27-1)  
★詳しくはホームページ <http://www.smile-park.net/> をご覧ください。



サマーキャンプ2012  
in クロスヴィレッジ

住んでいたマンションの1階まで津波が来て、みんな大変でした。広い牧場で遊ぶのが楽しみ(佐藤くん)。おじいちゃんの家が、津波で壊された。北海道で楽しいことをいっぱい経験するぞ(星くん)。

宮城県在住 @佐藤旭くん  
@星知志くん(共に小学5年生)



概要：震災の影響で精神的なストレスを抱える子どもたちに、大自然の中での体験や交流を通じて、楽しい時間を過ごしてもらおう「サマーキャンプ2012 in クロスヴィレッジ」。北海道留寿都村(ルスツリゾート)で3泊4日のキャンプを7月21日から8月23日まで計11回、実施しています。参加しているのは小学5年生から中学3年生までの約3600人。青年赤十字奉仕団や看護大学の学生など約1000人のボランティアが運営を支えています。



仮設住宅に家族4人で住んでいます。小学校も仮設です。今日、飛行機に初めて乗りました。とてもワクワクしました。北海道で思いっきり遊びたい。

岩手県在住 大澤優里菜さん(小学5年生)

今までしたことのないような、すごい体験をするのが楽しみです(運希くん)。双葉町から郡山市に避難しています。友だちをいっぱいつって最高の夏休みにしたいです(翔くん)。

福島県在住 @坂本運希くん(小学6年生)と @翔くん(中学2年生) 兄弟



乗馬やクライミング、農作物の収穫体験―夏の北海道で4日間を過ごした子どもたち。日焼けした顔はひと回りたくましく、ちょっぴり大人になったかな。津波で大きな被害が出た岩手県釜石市から参加した松下愛奈さん(5年生)はクライミングに初挑戦。「高いところは苦手だけど、キャンプで仲良くなった宮城から来た友達と、2人で頑張りまして笑顔を見せてくれました」。

被災した地域も学年も違う子どもたち。北海道の大自然の中、同じ境遇の仲間とのびのび過ごしたキャンプ生活で、新しい友達もできました。

こんなにはしゃいだの  
久しぶり!

## いそいそ 学べる学校へ 教育環境整備の支援をきめ細かく

**学校行事でも活用 ― 仮設体育館を建設**  
岩手県大槌町、大船渡市、福島県飯館村の3カ所に仮設体育館を整備。体育館備品は岩手県、宮城県の小・中学校に計500点以上寄贈。

**充実した食育を ― 給食備品の寄贈**  
大型冷蔵庫、保管庫、食器などの備品整備を支援。岩手県、宮城県、福島県内の給食センター、給食室に約9000点の備品を寄贈。

**健康をサポート ― 保健室備品と講習**  
岩手県、宮城県の学校157校に身長計などの備品を寄贈。健康や安全に関する特別講習会を岩手県、福島県の8園で実施。

本教育支援プログラム「日赤キッズクロスプロジェクト」は、世界各国の赤十字社・赤新月社を通じて寄せられた約979億円にのぼる「海外救援金」を財源としています。





### 地域防災訓練に参加 県支部と自治会が連携

岐阜県  
2012.6.17

岐阜県支部は地域の自治会が主催する防災訓練に参加。災害時に地域と協力しながら救護・救援活動を行うための連携を強めました。

海に面していない岐阜県では、津波災害こそ予期されていませんが、東海地震や東海・東南海連動型地震が想定される中、地域住民の防災意識は高まりつつあります。参加した100人余りの住民は、車のジャッキを使用しての家屋からの救出訓練や、救急法講習、炊き出し訓練、煙体験コーナー、消火器での消火訓練などに参加し、防災についての見識を深めました。中でも、日赤が用意したハイゼックス包装食を用いた炊き出し訓練では、参加者から「こんなに簡単にお米が炊けるとは」と驚きの声が上がりました。



自治会の防災訓練で炊き出し訓練は初めての試み

### 目指せ防災ボランティア 基礎研修会に37人参加

香川県  
2012.6.3

6月3日に開催された「平成24年度香川県赤十字防災ボランティア基礎研修会」に、防災ボランティア登録者で研修未受講の方や一般の方など37人が参加しました。

今回の研修は、防災ボランティアリーダーが中心となって企画運営し、ボランティア間の交流を深める契機にもなりました。東日本大震災における現地でのボランティア活動報告も行われ、その後の応急手当、担架搬送などの実技講習で参加者の真剣度が上昇。「ストッキングや新聞紙を使った骨折時の固定法を学び、身近な物が手当に活用できることを学びました」「災害は身近なところにあり、常に準備しておく必要があると実感しました」と、参加者の皆さんは防災ボランティアとしての一歩を踏み出しました。



担架搬送は初めてという人がほとんど。実技訓練で、いざというときに役立てます

### 奉仕団員を講習指導員に 養成プロジェクト開始

愛知県  
2012.6.30

愛知県支部は今年度から、「災害時高齢者生活支援講習」や「幼児安全法」の講習指導員資格を、地域赤十字奉仕団員に取得してもらうプロジェクトを開始しました。

地域では子育て支援や高齢者支援についての関心が高く、また東日本大震災をきっかけに防災意識も格段に向上しています。こうした状況を踏まえ、県民のニーズに積極的に応えていこうという支部の考えと、活動の場をもっと広げたいという奉仕団の思いが合致し、プロジェクトがスタート。指導員養成の講習を終えた奉仕団員は「初めは自分に指導員が務まるか不安でしたが、この講習で自信ができました」と話していました。今後は各地域の奉仕団で、積極的に講習活動を展開する予定です。



「少しでも地域の役に立ちたい」と、熱心に講習を受ける奉仕団員の皆さん

### 園児のJRCメンバー誕生 県内初、2保育園が加盟

石川県  
2012.6.26

石川県七尾市の七尾みなと保育園と東みなと保育園の2つの保育園が6月26日、県内の保育園としては初めて、青少年赤十字(JRC)に加盟しました。

同日、七尾みなと保育園で行われた登録式では、七尾みなと福祉会の奥村博行理事長、武元文平七尾市長が子どもたちを激励。参加した両園の園児約40人は「げんきなこどもに」なることや「せかいのみんとなかよく」などJRCの「ちかひの言葉」を全員で唱和。エコキャップ回収などのエコ活動や地域清掃のボランティア活動を通してJRCの活動に参加する予定で、保護者からは「これからどんどん社会に貢献してほしい」とJRCへの期待の声が聞かれました。



JRC旗を受け取る打越唯斗くん(左)と太平春ちゃん

### 中学生にも減災意識を 「赤十字減災セミナー」開催

静岡県  
2012.6.12

静岡県支部は6月12日、静岡市立安倍川中学校で「赤十字減災セミナー」を開催。同セミナーは、来年度から静岡県内の奉仕団、青少年赤十字などを対象に展開していく予定で、今回は本格実施を前にしたモデル事業として行われました。

「減災」は、災害時に助け合うことで被害を最小限に抑える取り組みで、セミナーでは「東海地震の被害を少しでも軽減するための備え」「発災直後にどう行動するべきか」を講義で学んだ後、AED(自動体外式除細動器)のデモンストレーションなどを体験。生徒からは「人を助けるといっても、その方法が分からなかったので、良い体験になった」「学んだことを活かし、災害時には救う側になって役立ちたい」などの力強い感想が聞かれました。



ハンカチを使って傷の手当の方法を学ぶ生徒たち

### 大阪海上保安監部と 新たな連携体制構築

大阪府  
2012.6.29

大阪府支部は大阪海上保安監部との間で、災害救助業務等に関する相互協定を6月29日に締結。東日本大震災の経験を踏まえ、57年ぶりに全面改訂しました。これまでの協定は災害時に限定したものでしたが、初動から両組織がより迅速に救護活動に当たれるよう、日頃の連携を重視した内容となっています。

東南海・南海地震などが発生した場合、大阪府でも沿岸部の道路が浸水して孤立する地域ができる可能性が指摘されており、こうした地域での救護活動に大阪海上保安監部による日赤救護班の搬送という事態も想定されています。大阪府支部の梶延弘事業部長は締結式で「平時から顔の見える関係を構築し、お互いの体制を強化していきたい」と抱負を語りました。



新協定では災害時だけではなく平時の相互連携を重視

### 東日本大震災復興支援 避難者とふれあい交流

新潟県  
2012.6.30

県内で避難生活を送る方々と交流を深めようと、新潟県赤十字安全奉仕団燕市分団は6月30日、地元行政や近隣奉仕団などと協力し「東日本大震災復興支援ふれあい交流会」を実施。避難者80人余りを含む約200人が参加しました。

会場となった燕市民体育館は、昨秋まで避難所として避難者の皆さんが生活していた場所。それぞれ借り上げ住宅に転居したため、今回久しぶりに一堂に会する機会となりました。幼児から高齢者まで一緒に楽しめるレクリエーションで汗を流し、「いつかは(故郷に)戻りたいけれど、新潟で良い思い出ができて良かった(避難者)」「新潟が第二の故郷になったと思ってもらえたら(奉仕団)」と、会場は一体感に包まれました。



同会は新潟県支部「東日本大震災復興支援With Youプロジェクト」の一環として開催

### 「水の事故ゼロ」へ 県警と強力タッグ!

神奈川県  
2012.6.19~22

神奈川県内の各警察署や県警本部から招集された61人の警察官を対象にした水上安全法の講習会を6月19日から4日間、神奈川県総合防災センターで実施しました。

今回の講習は、川に飛び込んだ男性を助けようとした警察官の殉職事故を受け、県警察本部が神奈川県支部に要請したもので、水に入らずに救助する方法や器物を用いて救助する方法のほか、通常警察官が身に付けている制服や対刃防護衣(金属の入ったベスト)、拳銃・無線機と同じ重さのウエートを取り付けたベルトを着用して、本番さながらの着衣泳も行われました。

参加した警察官からは、「厳しい講習だったが、このような経験ができてとても良かった」などの感想が聞かれました。



リングブイ(浮き輪)を投げて溺れている人の救助訓練をする警官



# 書籍紹介

## 『ポールで歩こう シニアのためのノルディックウォーキング』

2本のポールを使って歩くノルディックウォーキングを中高年向けにやさしく解説。大きなイラストが分かりやすく、誰でも安心してノルディックウォーキングを始められるガイドブックとなっています。

著者の藤田さんは北海道ノルディックウォーキング赤十字奉仕団委員長。東日本大震災では、被災者の方々の運動不足解消を図るため、被災地でノルディックウォーキングの講習を行って来ました。こうした活動も踏まえながらまとめたのが本書です。歩くのが難しくなってきた高齢者や障がいのある方も対象に、ポールを使って立ち上がりるところからアドバイスしています。



国際ノルディックウォーキング連盟公認  
ナショナルコーチ 藤田隆明著  
(A5判128頁 定価1500円+税)

●お問い合わせは  
北海道新聞社出版センター  
(☎011-210-5744)まで

### 寄付に感謝!

## 競輪・オートレースの補助事業活用 災害毛布15万枚などを整備

財団法人 JKA から「平成 22 年度非常災害援護補助事業」として寄せられた3億円の公益資金を活用し、日本赤十字社はこのほど、救援物資用の毛布 15 万 8542 枚と安眠セット1万 159 セットを整備しました。

JKA は、地方自治体で開催される公営競技の競輪とオートレースの振興法人として、さまざまな公益活動などを行っている団体。今回日赤に寄せられた補助金は、競輪公益資金の2億 8000 万円とオートレース公益資金の 2000 万円で、それぞれ毛布と安眠セットの整備に充てられました。

これらの救援物資は、日赤の各都道府県支部に配備され、災害時には速やかに被災された方々に配付されます。



JKA の寄付で整備された毛布と安眠セット

## 東日本大震災 クウェートから200万ドルの海外救援金

7月19日、「東日本大震災の復興支援に役立ててほしい」とクウェート政府から200万ドル(約1億6000万円)の寄付が日本赤十字社へ寄せられました。

同国からは昨年10月に原油500万バレルが日本政府に無償提供され、その相当額(約401億円)は日赤を通して被災地の復興に役立てられています。贈呈式でクウェート大使のアブドル・ラーマン・アル・オティビ氏は「この支援はクウェート国民の気持ち。日赤ならしっかり活用してくれると信じています」と日赤の復興支援の取り組みを激励しました。



寄付金を贈呈するクウェート大使

# プレゼント

「赤十字を知ってほしい。もっと。」キャンペーンのAKBオリジナルクリアファイルとステッカーのセット(①)、または7面上でご紹介した書籍『ポールで歩こう シニアのためのノルディックウォーキング』(②)を、それぞれ5名様にプレゼントします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。



- ①希望するプレゼント番号
- ②お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ③郵便番号・ご住所 ④電話番号 ⑤年齢
- ⑥赤十字 NEWS 8月号を手にした場所(例/献血ルーム)
- ⑦赤十字 NEWS へのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

応募先 ● 郵送 / 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3  
日本赤十字社 企画広報室 赤十字 NEWS 8月号プレゼント係  
FAX / 03-3432-5507  
メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS 8月号プレゼント係」)

応募締切 ● 8月27日(月)必着  
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

# スポーツとコラボ



ハーフタイムにはサポーター代表とバルちゃん(清水エスパルスのマスコット)などが、日赤のスローガン「人間を救うのは、人間だ。」と書かれた横断幕を持ってピッチを回り、赤十字をアピールしました

## 清水エスパルスの試合でチャリティーイベントを開催

静岡県 2012.6.9

6月9日にアウトソーシングスタジアム(静岡県静岡市)で行われた清水エスパルス対大宮アルディージャ戦に合わせ、静岡県支部は清水エスパルスなどと合同でチャリティーイベントを開催しました。

会場では、「清水エスパルス×日本赤十字社 静岡県支部」をデザインした当日限定のコラボTシャツを販売。あいにくの雨にもかかわらず、多くのサポーターが足を止め、チャリティーは盛り上がりました。中には昨年のイベントで販売したコラボTシャツを着て今年のTシャツを購入する人の姿もありました。



チャリティーTシャツ(限定50枚)は、あっという間に完売

## 赤十字看護大学・短期大学から平成25年度入学のご案内

赤十字の看護大学・大学院、短期大学では、赤十字の人道理念に基づく教育・研究を通じて看護・介護の知識・理論・技術などを修め、将来は国の内外において、赤十字活動、保健・医療・福祉の教育研究の分野で専門職として活躍することを目指す学生を募集しています。



また、各大学・短期大学では、大規模災害により被災(避難)されている受験生の皆さんを経済的に支援することを目的として、大学(短期大学)に入学される学生を対象に、初年度の授業料にかかる給付制奨学金制度を平成24年度から開始しました。願書受付・試験日程及び奨学金制度などの詳細は、下記のWebサイトをご覧ください。

学校名・ホームページ	所在地	電話番号
日本赤十字北海道看護大学/ 大学院** (修士課程) <a href="http://www.rchokkaido-cn.ac.jp">www.rchokkaido-cn.ac.jp</a>	北海道 北見市	0157-66-3311 担当: 学生支援課
日本赤十字秋田看護大学/ 大学院** (修士課程) <a href="http://www.rcakita.ac.jp">www.rcakita.ac.jp</a>	秋田県 秋田市	018-829-4000 担当: 学務課
日本赤十字看護大学* / 大学院** (修士・博士後期課程) <a href="http://www.redcross.ac.jp">www.redcross.ac.jp</a>	東京都 渋谷区	03-3409-0875 担当: 学務課
日本赤十字豊田看護大学/ 大学院** (修士課程) <a href="http://www.rctoyota.ac.jp">www.rctoyota.ac.jp</a>	愛知県 豊田市	0565-36-5111 担当: 企画・地域交流課
日本赤十字広島看護大学* / 大学院** (修士課程) <a href="http://www.jrchcn.ac.jp">www.jrchcn.ac.jp</a>	広島県 廿日市市	0829-20-2800 担当: 入試課
日本赤十字九州国際看護大学* / 大学院 (修士課程) <a href="http://www.jrckicn.ac.jp">www.jrckicn.ac.jp</a>	福岡県 宗像市	0940-35-7001 担当: 学務課
日本赤十字秋田短期大学 (介護福祉学科) <a href="http://www.rcakita-jc.ac.jp">www.rcakita-jc.ac.jp</a>	秋田県 秋田市	018-829-3000 担当: 学務課

(注) \*印の大学では認定看護師の教育課程も開講しています。  
\*\*印の大学院では専門看護師の教育課程も開講しています。



facebook に日赤公式ページができました。東日本大震災での取り組みをはじめ、とっさの手当や献血のこと、国内外の活動現場の写真など赤十字ならではの最新情報を発信していますので、ぜひご覧ください!  
<http://www.facebook.com/japaneseredcross>



# WORLD NEWS

サヘル地域 シリア

## 大規模自然災害

国際機関・NGOなどから500人が参加

# 「世界防災閣僚会議 in 東北」東日本大震災の教訓を世界に

東日本大震災をはじめとした近年の大規模自然災害の経験や教訓を世界で共有し、災害に強い社会を構築しよう——63カ国の閣僚や14の国際機関の代表、国際・国内のNGO(非政府組織)の代表者ら約500人が参加して7月3、4日の両日、「世界防災閣僚会議 in 東北」が宮城県仙台市などで開かれました。

開会式であいさつした野田佳彦総理大臣は「東日本大震災で得た知見と教訓を国際社会と共有していくとともに、各国から受けた支援への恩返しとして日本は積極的に国際社会における防災分野で貢献してい

く」と決意を表明。国連開発計画(UNDP)のヘレン・クラーク総裁は母国ニュージーランドの大地震の経験に触れるとともに、今後は防災・減災を開発計画の中心に位置づけていくと強調しました。

## ボランティア通じ防災意識高揚

日本赤十字社の近衛忠輝社長は国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)の会長としてパネル討論に参加しました。自然災害の増加傾向や巨大化、被害の複雑化などを指摘し、防災対策のために国際支援の調整が必要であると訴え、そのためには海外からの支援の受け入れを容易にするための国内の法体制整備も重要であると強調しました。さらに赤十字は各国でボランティアの育



握手を交わすヘレン・クラークUNDP総裁(左)と近衛社長



大規模自然災害に備えた対策など、会議では「防災の主流化」に向けた議論が交わされました(写真右端:近衛社長)

成を通じてコミュニティの防災意識を高める取り組みを行っていることを報告し、「ボランティアの活動なくして防災・減災は難しい。各国政府は赤十字のこうした活動を後押ししてほしい」と訴えました。

## 女川の中学生が「防災対策案」

東日本大震災の被災者代表として、宮城県女川町立女川第一中学校2年生の今野侘美さんと勝又愛梨さんが登壇しました。今野さんたちは、社会科の授業で議論を重ねて作成した「津波対策案」について「自分

たちはまだ非力で、現実に結びつけることができないけれども、この会議で紹介することで実現に近づきたい」と、故郷を自分の孫の世代にまで残していきたいという思いを語りました。

参加した各国代表者からは、持続可能な防災の取り組みと、災害被害軽減のためのプラットフォームづくりの必要性が提示され、災害から立ち直るための復元力を社会に備えていくことを確認。宮城、岩手、福島各県で開催された分科会では、被災した漁港や工場などの視察も行われました。

## アフリカ・サヘル地域

### 深刻な食糧危機

# IFRCが各国赤十字社と緊急食糧援助など人道支援

サハラ砂漠の南に広がるアフリカのサヘル地域では、干ばつなどを原因とする深刻な食糧危機に人々が襲われています。国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)は、緊急の食糧配付などを各国赤十字社と連携しながら展開中です。

半乾燥地帯のサヘルは砂漠化が深刻な地域。過去にも干ばつによる飢餓が発生してきました。1800万人以上が食糧危機

の難民が隣接している国々へ押し寄せたことで、それらの国々の食糧事情を一段と悪化させてしまいました。

人々の出稼ぎ先である北アフリカや西欧諸国が、政情不安や経済危機で出稼ぎ労働者を受け入れられなくなったことも遠因です。出稼ぎ先からの送金が途絶えたことで、食べ物を購入できない貧困層が大量に生まれてしまったのです。

## 人道支援の緊急要請発表

こうした事態にIFRCは「緊急救援要請」を発表し、世界の赤十字社・赤新月社に総額1990万スイスフラン(約16億円)の資金協力を要請。並行して、サヘル地域の各国赤十字社と連携し、食糧の配付や家畜の餌の提供、乳幼児と妊産婦を対象とした栄養改善プログラムなどの緊急支援を実施しています。また、今後の干ばつへの備えとして、種子や農具の援助、灌がいの整備を通じて、農業生産力を高める課題にも取り組んでいます。

日本赤十字社はIFRCの要請に応じて、これまでに約5200万円を拠出。各国での人道支援活動を支えています。



深刻な飢餓は、子どもの成長にも影響が及ぶ

## シリア

### やまない武力衝突

# 活動中の赤新月スタッフ 相次いで犠牲に

政府軍と反政府組織との武力衝突が拡大するシリアで、同国赤新月社のスタッフが相次いで殺される事件が発生。そうした状況下、救援を求める市民への人道支援に向けて、国際赤十字と連携した懸命の活動が続けられています。

シリア赤新月社の救急車が攻撃されたのは7月9日。銃撃を受けたボランティアスタッフのハッファージさんが翌日息を引き取りました。これで今回の紛争による同国赤新月社の犠牲者は計5人になりました。

同国赤新月社のアブドル・ラーマン社長は攻撃を強く非難したうえで、「すべての戦闘当事者は医療従事者と赤十字・赤新月の標章を尊重し、スタッフが安全に救援活動を行えるよう配慮しなければならない」と政府軍、反政府組織の双方に訴えます。

## 私たちが助けなければ

シリア赤新月社は1万人のボランティアを抱える同国最大の人道支援機関です。武力衝突の勃発以来、赤十字国際委員会(ICRC)と協力し、傷病者の救急搬送や応急手当、緊急支援物資の配付、避難する市



日赤はシリアでの活動を支援するため、3000万円を拠出

民の手助けなどを行ってきました。

戦闘激化に伴い、人道支援活動はICRCと同国赤新月社に全面的に委ねられていますが、負傷者救護の「停戦時間」が守られず、活動が阻まれる事態も。救急車への攻撃は、こうした中での出来事でした。

ボランティアの女性は「ここは私の国。負傷者を助けるのは、私たちがやらなければ」と、今日も救急車に乗り込んでいます。